

Logement

～路地×アパートメント～

八代研究室
00512077 小林 亮平

1. はじめに

現在の社会においてコンピュータ依存や引き籠りといった自ら社会との関係を断ち切ってしまう人が増えてきている。そのように閉鎖的になりつつある人の環境を変えるため行田市に存在する路地を利用し、人や街の流れを感じ自然に住民と住民が交差し豊かなコミュニケーションを生む新たな集住形態を提案した。Logement とは仏語で住宅を意味し、今回は路地とアパートメントを掛け合わせた新たな空間としての意味も含めた。

この計画では、建物の形や光、路地の風や緑が現在の閉鎖的な人間の偶発的なコミュニケーションを生み出す可能性を含んでいる。

2. 敷地

埼玉県行田市には昔から残る蔵などがあり、戦争時の名残から街の路地は人の進入を拒むように雁行し、一種の迷路のようにになっている。現在この特性は、車を拒み人が通るためのまたとない環境を形成している。計画地には、昔の水路の名残なのか路地の中にぼつりと広場のような空間が存在する。その空間に面白さを感じ、よりその空間を活かし魅力を持たせるために本計画では、道路を挟んだ敷地を設定した(図3)。

3. コンセプト

路地と一体に絡みあった住空間を創出する方法として、まず建物の形を決める上で始まりと終わり、内と外、表と裏が曖昧である空間が面白い建物に繋がる要素を含んでいると感じ、クラインの壺(図1)やメビウスの輪(図2)を参考にした。その結果生まれた形を利用し、現在の単調で画一的な形をした集合住宅とは違った新たな集合住宅を計画した。

(図4)のように始まりと終わりのない1本のひもを作る。この時交わった部分は接触せず、この状

態を利用し立方体に変化させる事で、メビウスの輪を思い起こさせるような面白い形が生まれる。この形(図4-2)の特徴は、どの部分もお互い支え合っていないのに、ピタリとした立体になっている事である。今回はこの形を基に、2つの異なる形を組み合わせさせて集合住宅を考えた。

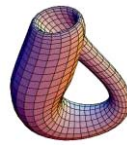


図1
クラインの壺



図2
メビウスの輪

4. 計画案

この建物は住居者が偶発的に人と出会い、独り暮らしとはイコールとならないような環境を作り出す。住居者は学生などと限定せず多種多様な人が住めるよういろいろなサイズの部屋を設定した。①本計画地の可能性として、道路以外にも家と家の間の路地などから様々な人の流れが生まれる。③部屋の多くがロフトのような2階部分があり、採光の取りにくい部屋にも光が入るように設定した。⑤各部屋にはバルコニーのような共有スペースへ繋がる開口があり、そこから他の部屋の住人と交流することが出来る。敷地に広場のような路地を含むことで街の流れを感じ、人々の交流の場を生む事が出来る。さらにこの建物が道路を挟んで設定する事で、建物がゲートのような役割を持ち広場をより魅力的な空間となる。⑥西側の建物の一階を柱のみのピロティ的な空間にする事で建物と地上との分断を図り、住居者だけの空間でなく街に開けた路地の一部とした。

5. まとめ

今回の卒業設計を通して行田という古き良き町並みの素晴らしさや、路地の魅力や大切さを強く感じた。そして路地の面白さや街との関係性、可能性を提案する事が出来た。

【参考文献】Mathematical Art 展実行委員会

『数学にさわろう! Mathematical Art 展』 1997年

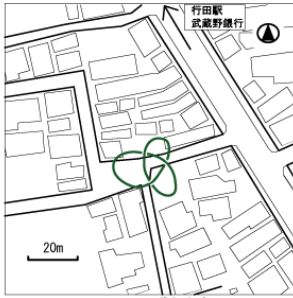


図3 敷地図

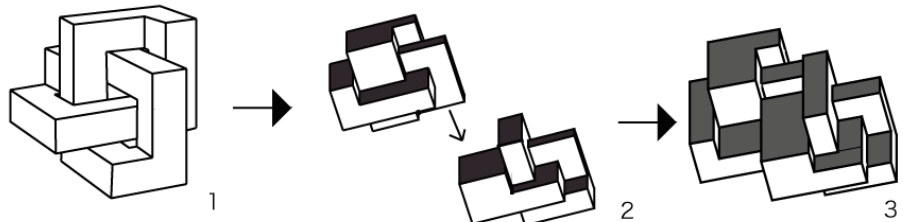
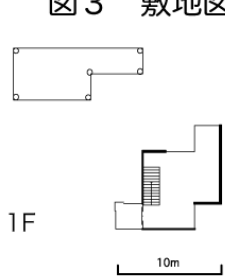
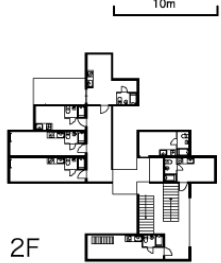


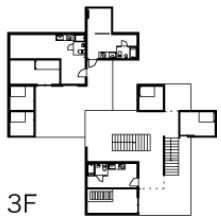
図4 コンセプト図



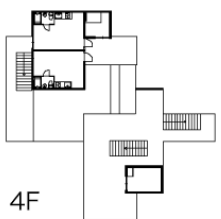
1F



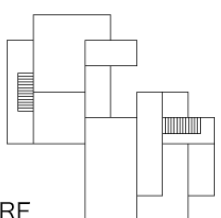
2F



3F

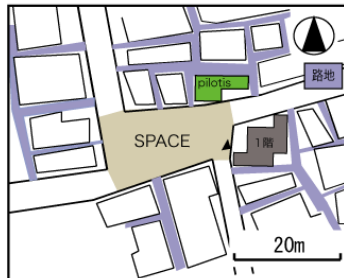


4F

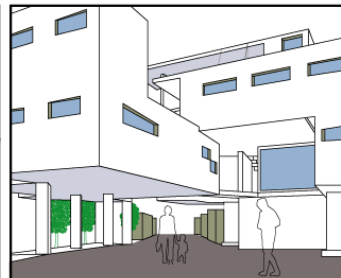


RF

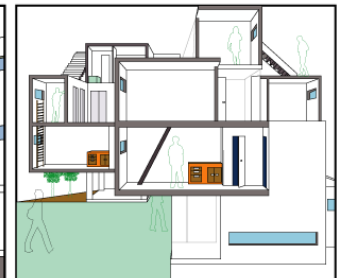
図5 平面図
立面図



①路地を通り人が流れる可能性。
建物の間を路地とすると道路
だけでなく様々な場所から広
場へと通じる事ができる。



②南西から見たパース。
建物が時には屋根となり
日差しや雨から守る。



③南東部屋断面パース。

規模 地上4階
構造 鉄筋コンクリート造
敷地面積 422.5㎡(道路含む)

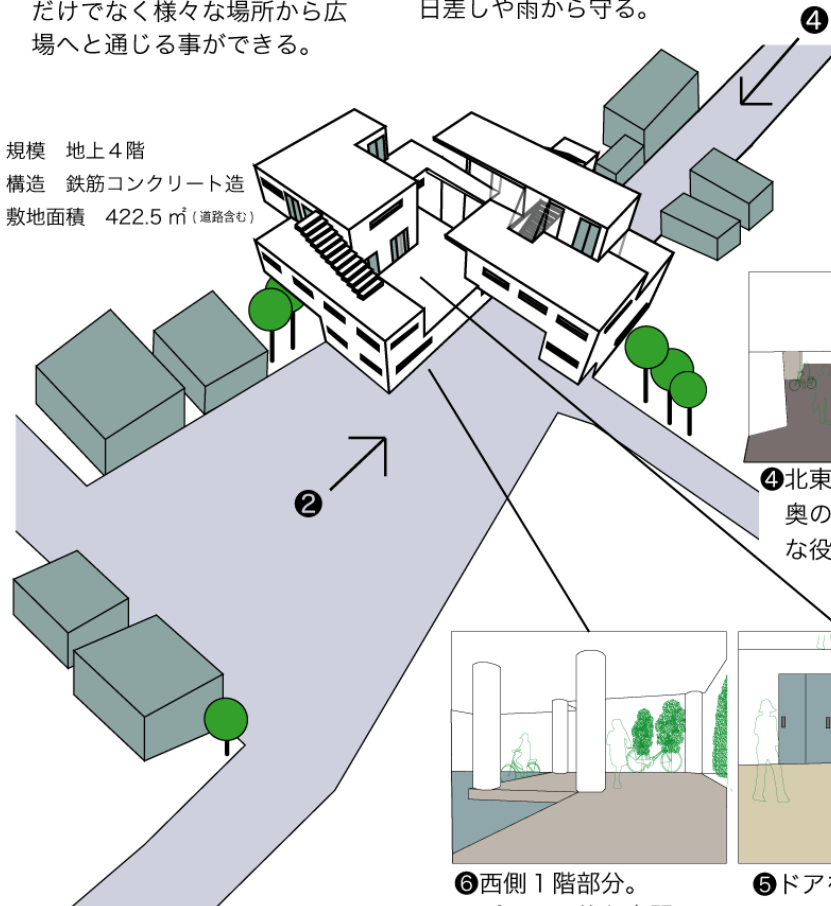
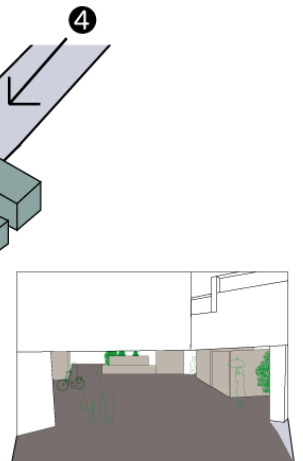


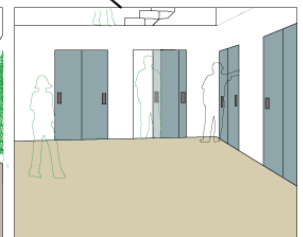
図6 空間説明図



④北東から見たパース。
奥の広場のゲート的
な役割となる。



⑥西側1階部分。
ピロティ的な空間。
道路とは少し離れ、子
供やお年寄りが安心し
て過ごす事ができる。



⑤ドアを開けると共有
スペースへと繋がる。

北西立面

